

Meet the Musicians

楽団員紹介

演劇に魅せられたヴァイオリニスト

森岡 ゆりあ

Yuria Morioka

[[第1ヴァイオリン奏者] 2017年 11月入団

趣味: 宝塚歌劇団・バレエ鑑賞



©N.Ikegami

ウィーンでの1年間

テレビでアンネ=ゾフィー・ムターの弾き姿を観て「これがやりたい」とヴァイオリンを始めたのが3歳の時。小学校3年生の時、父の仕事の関係で音楽の都ウィーンで暮らした1年間も、ヴァイオリンのレッスンを続けていました。ウィーン国立歌劇場で魔笛や白鳥の湖を観たのが、今でも記憶に残っています。

現地の小学校は、オーストリア周辺の様々な国から来た生徒がいる、とてもグローバルなところ。「宗教」の科目ではキリスト教の人とそれ以外の人に分かれて授業を受けてました。夏休みにはオーストリアの中央に位置するラッシングという小さな町で合宿があったのですが、そこで一緒だった友人は、今ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に在籍しています。



小学3年生のとき、ヴァイオリンのTatiana先生と、現ウィーン・フィル第1ヴァイオリン奏者のAlina Pinchasさんと。

宝塚歌劇団の虜に

宝塚歌劇団を初めて観たのは、全国公演で福岡に宝塚歌劇団の花組が来た時。煌びやかな世界観、圧倒的にかっこよさにあつという間に虜になってしまい、その時からずっと熱烈なファンです。時

には数少ない当日券を求めて、始発電車で劇場に向かうことも。

この自粛期間中は、新しい教本を取り入れて基礎を見つめ直したり、弾きたくて買っておいた楽譜を消化したりしました。世界各地に散らばった友人たちとテレビ電話をつないで弾きあい会をしたり、「オンライン飲み会」をしたり、たまには運動をと、散歩を試みたり。

そして、大好きな宝塚のセルフメイクにも挑戦しました。というのも、この自粛期間中に、パーソナル・マネージャーが定期的に楽団内メールマガジンを配信していて、そこで楽員それぞれの最近の様子を集めて動画で公開していたのです。

その時に、中村さん(第1ヴァイオリン/下記写真右側)からリモートアンサンブル「鏡のデュオ」をご提案があって…しっかりメイクをして、“ベルサイユのばら風”に「鏡のカノン」を弾いて、楽団内に公開しました。反響がもの凄く……。一回やってみたかったのでよかったです(笑)。



宝塚メイクはしっかり練習をして、撮影に挑みました。

インタビュー: 事務局